

台湾道德教育の動向と実際

台北市立小中学校における取り組みを中心に

渡 邊 毅

〈要旨〉各学習領域の中で品德教育を行っている台湾の公立小中学校を視察して、次の①～③の示唆を得ることができた。

- ①「品德核心价值」を設定して月毎に一つの価値を掲げ、「行動規範」をもとに行事や授業の中で実践し価値の定着をはかっていた。
- ②道徳的な内容を盛り込んだ体験活動を豊富に提供し繰り返し行動させていく中で、道徳的価値の定着をはかっていた。
- ③各教育活動における道徳教育が、意図的に計画され継続して取り組まれていた。

但し台湾全体では、品德教育に対する認識不足の教員が多く認められ、半数以上の割合の学校でそれが十分に実施されていないという課題があるということがわかった。

〈キーワード〉 品德教育 核心价值 行動規範 体験活動 教育活動全体

I はじめに

平成27年4月から移行措置として「特別の教科 道徳」が始まり、小学校は30年度、中学校は31年度から全面実施されることになった。国外においてわが国の道徳教育に近似しているのが韓国だが、すでに韓国では道徳科が初等学校と中学校に設置され教えられている¹。現在韓国はアメリカのCharacter Educationの影響を受け、「人性教育」と称する道徳教育を展開し新たな段階を迎えているが、本稿で扱う台湾もアメリカの教育思想に影響を受けながら、わが国や韓国とは異なった流れの中で道徳教育を推進してきている。つまり、後述するように台湾ではかつて道徳教育の教科が存在したが、近年それが廃され、学校教育活動全体を通じて展開されるようになってきているのである。教科化に向かう日本、教科を脱した台湾。このわが国と対照的な方向性をとっている台湾は、現在どのような道徳教育を展開しているのだろうか。

そこで、筆者は平成27年3月11日～15日に台湾の公立小中学校を視察し、また国立台湾師範大学の李琪明²（公民教育・活動領導学系教授）や国家教育研究院³の研究員⁴から台湾道徳教育史や現在の道徳教育推進状況についてレクチャーを受けたり懇談を行ったりした。本稿では、それをもとに台湾道徳教育の動向と実際を整理し、わが国道徳教育の今後の開発に向けた示唆を探っていききたい。

II 近年の台湾道徳教育の動向

台湾では2000年を境に、大規模で抜本的な教育改革⁵が行われた。そして、2001年度から九年一貫教育課程の教育が開始され、教育課程は従来のような細分化された科目ではなく、7つの学習領域⁶に整理・統合された。そして、道徳の授業も専科によるのではなく、それぞれの領域の中で行われることになった⁷。しかし、専科による道徳教育が消失したことに対する世間の批判は大きかった。

そこで、親やマスコミからの道徳教育強化に対する要望への対応策として、教育部は、04年に5年計画の「教育部品德教育促進方案」（5年計画で策定さ

れ、`15年には第三次の方案が出されている)⁸を打ち出した。これにより全国の学校は、品德教育プログラムにしたがって「品德核心价值」⁹と「行動準則」を設定し、各領域において道德教育を展開するようになった。道德教育について「品德」という言葉が広く使用されるようになるのは、この頃からである。台湾の道德教育は欧米の民主主義教育の影響を受け、また「道德」という場合、台湾では孔子の思想などが連想されるので、専門家の間で議論され現在ではそれと区別する意味でも「品德」と呼ばれるようになってきているようである。そして、品德教育と呼ぶ場合、それは道德教育と品格教育、価値観の教育という意味が含まれていることになっている。`11年に開催された全国教育会議でも道德の専科を設置するか否かについて激しく議論されたことがある。賛成・反対は拮抗していたが、最終的に教育部は専科としないという結論に至ったのだ。

九年一貫教育で道德教育の成果がなかなか上がらないという反省から、政府は`14年度9月から開始された「十二年一貫教育」¹⁰において道德教育を強調していきたいという意向だ。教育部は大学の教員や品德教育の専門家に協力してもらい、品德教育の内容や方法を整備し品德教育優秀校を選ぶなど、その推進強化をはかっている¹¹。そして、さらに品德教育について具体的に男女平等、人権、環境など19のテーマを設定し、各科目の中でそれを実施するよう指示を出している。例えば国語の授業では生命教育にかかわる文章を読み、生命の問題について考えさせたり、科学の授業では環境について話し合ったりする、というような学習活動を行っている。また、現在では、学校により必要に応じて、物語、絵本、漫画、伝記、時事と新聞、映像などの教材¹²を使用して授業が行われたりすることがあるようだ。但し、この授業は週一時間実施される日本の道德科のように、定期的に行なわれている授業ではない。

では次に、どのような品德核心价值を設定し、学習領域や行事の中で品德教育を展開しているのか、台北市北投区関渡国民小学校と台北市立西湖国民中学校を通して概観していきたい。

Ⅲ 台湾公立小中学校における品德教育の展開

1 台北市北投区関渡国民小学校の品德教育の実際

北投区は台北市の最北端に位置する市管区である。同区には関渡国民小学校（以下「関渡小」と記す）を含め公立小学校が16、私立小学校が2校あるが、児童総数（1年級～6年級）1091名、教師94名、事務職員9名の大規模校である¹³。多くの教師が自ら教材を作成して研究し、品德教育を行っている学校である。イベントを行うときにも、保護者に呼びかけて共に品德教育を行えるよう心がけている。2004年に同校は台北市から「品德教育中心校」¹⁴に指定され、次の（1）～（3）のような品德教育を行っている。

（1）核心価値の設定と道徳的行動の奨励

台湾の品德教育は欧米の道徳教育から影響を受けており、核心価値が設定されている。教育部は`04年に「教育部品德教育促進方案」を制定し「品德核心価値」と「行動準則」を各学校で設定することを求めている。関渡小の設定する「品德核心価値」は、「関心」「公平」「責任」「感恩」「信頼」「自律」「尊重」「誠実」「親孝行」「自省」の10徳目である。これを月毎に1つ設定し、各領域や行事を通して児童に道徳的価値を身につけさせていくという教育法をとっている（表1参照）。行事を通じた体験学習に重点を置いて指導を行っており、子供の学習意欲も高いという。

教師は、「『どうぞ』『ありがとう』『ごめんなさい』をいえるか」「礼儀正しく人と会話ができるか」などの項目があるチェックシートを用いて子供たちの道徳的な行動を観察し記録をとっているが、成績評価は行っていない。しかし、よい行動をとった子供には教師が「榮譽カード」を与え、学校長からも「榮譽賞」「榮譽状」などが授与されるようになっている。

（2）月毎の核心価値に沿った学校行事

月毎に核心価値に関連させて行事がとり行われている。例えば「関心」という核心価値が設定された9月（台湾の入学新学期）¹⁵には、「快活なフレッシュマン」という行事が行われ、これを通して全校児童が新入生に関心を高められるように学校の雰囲気を作っていく。あるいは、「友好関係の学園」も児童のお互いの関心が高まる環境づくりの活動として設定されているのである（表1

参照）。

表1 関渡国民小学校の道徳教育実施計画表（2009年作成）

| 時間 | 核心価値 | 行為基準 | 学校の行事活動 | これまでに研究開発した行事活動 |
|-----|------|---|---|--|
| 9月 | 関心 | <ul style="list-style-type: none"> * いつも他人に対して心遣いをする * 積極的に教員、同級生また家族を手伝う * 家と学校の植物と動物を愛護する * 他人に対する心配り | 快活なフレッシュマン 教員を尊敬する活動 防震教育宣伝 友好関係の学園 | 1. 蜜蜂の恩返し（低） 2. 標的牛（低） 3. 教員を尊敬する活動（低） 4. 新年度を迎える活動（低） 5. 学園の木々にキスする（中） 6. 愛することに違いないー君の成長を見守る（高） |
| 10月 | 公平 | <ul style="list-style-type: none"> * 遊戯の規則を守る * 他人に接するとき相手の立場になって考える * 心がひろく人の言うことを拝聴する * 自分の過ちを他人のせいにしてしない * 不正な手段で利益を得ない | 模範生の選抜 図書を利用する教育 | 1. 私のせいではありません（中） |
| 11月 | 責任 | <ul style="list-style-type: none"> * 自分の仕事は自分でする * 今日やることは今日のうちに終わる * 困難を恐れず、全力を尽くす * 決めたことを遣り通す * 自分の行為に責任を負う * 三思ののちに行う | 体育の出し物 陸上競技 関渡美術展覧会 健康促進キャンプ 卒業旅行 | 1. 広い愛を造る 2. 慌てるさん（低） 3. 身につけて良かった（中） 4. 第一匹の魚（低） 5. 私は責任感がある小さな天使（低） |

※12月～6月は省略

(3) 授業における品徳教育

品徳教育は各領域の授業の中で行われているが、その際も行事と同様その月の核心価値にちなんだ内容がとり扱われる。例えば「語文」領域の授業では「家族と旅行する経験」という教材を使用して、どのように家族と「関心」を高めていくかということを考えさせたり、「自然と生活科技」領域の授業では植物の生長の単元において植物に水をやり生長させていく過程の中で「関心」の重要性に気づかせたりしていくといった取り組みを行っている。

「総合活動」領域は教師の裁量により行える授業であり、国語や歴史など他の領域とも授業テーマを合わせ連携して授業が進められている。筆者が実際参観した「閲読授業」（読書の授業で総合活動の一つ）では、ケビン・カーターの写真「ハゲワシと少女」を題材に生徒に議論をさせるという内容の授業が行われていた。

わが国の改正された学習指導要領において問題解決型の授業が推奨されるようになってきているが、関渡小の三名の教師（李明珊、高樹賢、凌金環）が「世界がもし百人の村であったら」を教材にして行った問題解決型授業が、'09年台北市の「道德小話で行う教師の教学計画作品活動」で“特優賞”を受賞している。関渡小では、全授業の約5割¹⁶が児童同士のディスカッションや表現活動などをとり入れている。なお授業内容については各教師に任されており、固定的な教学モデルはない。教育部及び県市教育局は、教師が品德教育の自主教材を作成して授業を行うことを奨励しているということだった。

2 台北市立西湖国民中学校の品德教育の実際

台北市立西湖国民中学校（以下「西湖中」と記す）は、品德教育において優れた実績をあげ政府から表彰を受けた学校である。学校組織においては学務¹⁷が品德教育を担当し教員をリードして、次のように（1）核心価値を確立し（2）学習領域における品德教育と（3）行事を通して行なわれる体験活動により品德教育を行なっている。

（1）核心価値の確立

写真1 校内に掲示された品德核心价值



西湖中では、クラス会議¹⁸で生徒と教師がディスカッションして核心価値を決めたという（表2参照）。そして、写真1・表2の「品德核心价值」と「行動規範」を基本にした品德教育が以下の（2）（3）のような学習領域や行事を通して展開されている。核心価値に沿った授業内容や方向性は、

学期の最初に教師たちによるカリキュラム会議で決定されていくということだった。

表2 西湖中の核心価値

| 品德核心价值 | 行為規範 |
|--------|--|
| 自主自律 | 1. 学校の規則を遵守している。 2. よく考えて、正しい行動がとれる。 3. 自分の感情をコントロールすることができ、適切な方法で対処できる。 4. 民主的な精神により、民主的な決定に従うことができる。 5. 学校の設備を大切に扱える。 |
| 責任感 | 1. 自発的に宿題をやり、提出期限までに提出できる。 2. 他人に責任転嫁をせず、自分のなすべきことを行う。 3. 自発的にしっかりと清掃活動ができる。 4. 環境保護を率先して行い、ごみの分別が行える。 5. 本分を守り、クラスのために貢献できる。 |
| 生命尊重 | 1. 他人の権利を尊重することができる。 2. 他人の意見を忍耐強く聴き、その後に自分の意見を表明することができる。 3. 自分と異なる意見も尊重できる。 4. 自主的に他人の財産と身体を尊重することができる。 5. 礼儀に合った言動で、他人と接することができる。 |

(2) 学習領域における品德教育

現在台湾では前述のように7つの学習領域が設定され授業が行われているが、西湖中では、その中に「生命教育」「性別平等教育」「生涯教育」といった課題を織り込んで品德教育がなされている。

①生命教育

台湾でもわが国同様子供の自殺や殺人など問題行動が社会的に深刻化し、生命尊重ということがしきりに強調され以前より重視されるようになった。教育部は、`97年に「生命教育」の推進を打ち出し、`01年を「生命教育の年」と名づけ小学校から大学までの16年間の生命教育に関

写真2 栽培瓶



する履修や研究を支援する基金を設けるほどに力を入れている¹⁹。西湖中では、生徒に人への思いやりと生命尊重を理解させることを目的に、生命教育を行っている。7年生の「自然と生活技科」領域の授業では、季節毎にテーマを決め、校内の「緑の小精霊」と呼ばれる栽培瓶（写真2）で各クラスが花や果物、野菜を栽培している。適時剪定したり肥料をやったりして、その生長過程を撮った写真をクラスのホームページに載せ配信している。野菜や植物の生長過程を通じて生命的価値観や植物を鑑賞する能力を養っているのである。収穫した後は、その成果をおいしく味わうという体験をするとともに、「母の日」に感謝の気持ちを伝えるために自分たちの栽培した野菜を母親たちに贈るという活動も行っている。

また、生命教育の精神とからめて他文化に触れる活動が、8年生の「芸術と人文」領域の中で行なわれている。異なった文化の伝統や風習に触れるということで、生徒に卵を配り、それを一週間生徒が保管し、教師と共同でイースターの卵として美しい色つけをするという活動を行なっている。これは殻を損傷しないように慎重に扱うことに集中するために必要なプロセスになっている。そして、希望する学生には、妊娠中の母親の世話をする体験活動を行い、生命の意義と家庭関係、家族の重要性が理解できるようにしている。

9年生では、「総合活動」領域で「生命鐘」というテーマの授業で、生命の有限性と時間の大切さが教えられる。「世界の終わりの前」という授業では、自分にとって大切な人のことを考えさせ、その人に対する自分の愛情を表現する「愛の計画」を立てさせている。

②性別平等教育

97年1月22日に公布、施行された「性的侵害行為犯罪防止法」の8条に「国民小学、国民中学の各学年では、性的侵害行為防止教育カリキュラムを少なくとも4時間以上実施しなければならない、その内容には『ジェンダー・フリー教育』を含むこと」とされた。これを受けて、教育部は性別平等教育を推進することになったが²⁰、西湖中ではその一環として、生徒たちが男女平等の精神を内容に盛り込み創作した歌を発表し合うというコンクールを開催している。これは生徒に共感を起こし、ジェンダーを越えた男女平等の精神を涵養す

るための行事とされている。

③生涯教育

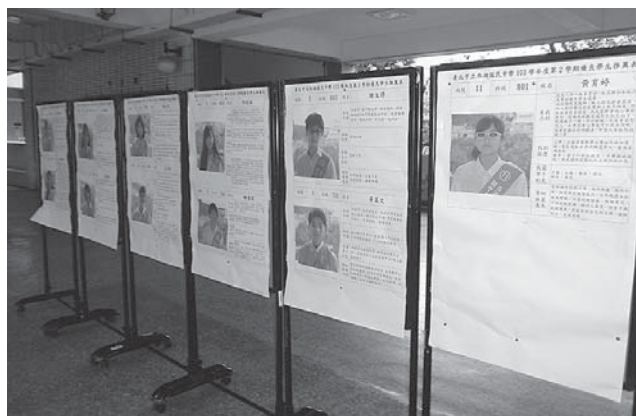
キャリア教育のことを、台湾では「生涯教育」と呼んでいる。西湖中では生徒が自らを評価して系統的・効率的な「生涯ファイル」を作成している。そして、それを活用して自己の発見、キャリアの発見、キャリアの計画に役立てている。7年生においては、裁判所、公共テレビ局など職場見学活動を実施している。これは仕事に対する興味を養わせるとともに職業適性を考えさせ、生涯計画を立てさせるために行っている活動である。8年生は、高級職業学校（3年制）や5年制専科学校の見学活動を行っている。学校を訪問し、各職種の学習テーマと職場の特質について学んでいる。そして、これを参考にして9年生時の芸術教育課程の選択が行われているという。さらに、高級中学・高級職業学校と専科学校の教師と学生を学校に招いて説明会が開催され、各校・各科の特色が展示される。これによって生徒は、各校・各科の特色、定員、入学方式、交通、将来の進路や進学などの情報が得られることになっているのである。

(3) 行事を通して行なわれる道徳的体験活動

①「品德のスター」の選出大会

品德教育に関係のある体験活動を計画し、生徒が実際に道徳的行動がとれるようにしている。例えば品德に優れた生徒（「品德のスター」）について選挙を行う行事がそれである。これは、(1) 活動を通して学校の核心価値についての理解を深め、善行を実践できるようにする、(2) 品德に優れた生徒の手本をつくり、それを見習うよう励まし品德にふさわしい振る舞いができるようにする、ということを目指して、クラス単位で行われる全校行事である。「自主自律、責任感、生命尊重」の西湖中の核心価値によりクラス毎に品德優秀生徒を選出し、各学年で最優秀品德生徒を選出するという活動である（写真3参照）。他の生徒は自分のクラス代表生徒が最優秀に選ばれるように、協力して歌やダンス、劇などを通して候補者のいいところをアピールする。品德に優れた生徒のためだけでなく、クラス全体のためにも協力や団結といった品德を学び体験できる活動になっているのである。

写真3 各クラスを代表する品徳優秀生徒のポスター



②その他品徳教育に係る行事

- ・「教師の日」²¹に、生徒が団子を用意して教師に捧げる（教師に感謝する）という道徳的行事を行っている。また、「祖父・祖母の一週間」には、祖父母に感謝の意を伝える行事が計画されている。
- ・「母の日」の恩返し活動として、老人ホームの老人達を招待して、「恩に感ずる心」という手話曲を演じたりしている。これはボランティア活動を行っている母親たちから習った手話をもとにして行っている活動である。
- ・全校集会（2週間に1回）で、身体障害者（学校では障害者を「命のファイター」と呼んでいる）に自分の人生についてスピーチをしてもらう。あるいは、障害について考えたり体験活動や交流会を行ったりしている。
- ・週2回45分間、朝に道徳に関連する図書（学校が購入しクラスに備え付けられている図書）を読むということを行っている。
- ・旧暦新年の前には必ず家を掃除する習慣があるが、それにちなんで学校の活動として地域の人たちと生徒と一緒に地域の清掃など環境整備活動を毎年行っている。こうしたイベントがあることによって、地域の人たちとの良好な関係が結べているという。したがって、地域の人々は学校にたいへん協力的なのだそうだ。
- ・仕事についての理解を深めることを目的に、地域の人と連携して地元の店や公共の事業所を訪問し、仕事をさせてもらうという勤労体験学習を行っている。地域の人とは、太鼓の演奏発表会を一緒に開催するといった活動も行っている。

- ・先住民の生徒からダンスを教えてもらい、一緒にダンスをして彼らと交流する機会をつくっている。
- ・生徒は最低年間6時間奉仕活動が義務づけられており、その活動状況は成績評価に反映されることになっている。西湖中ではサービス・ラーニングの一種で太鼓クラブがあり、地域の人たちと協力して発表会などを開催している。

以上のように、台湾の品德教育は知識の伝達より行動や実践を重視している。生活や体験から道德教育を行うことを心がけているのだ。基本的な道德的価値については生活の中で自然に教える、という考え方をとっており、それを実践しているのである。

Ⅲ 関渡小と西湖中の道德教育から得られた示唆

前章で関渡小と西湖中の品德教育を概観してきたが、それらから得られた次の3つの示唆を指摘し、今後のわが国道德教育の展望を考えていきたい。

まず1つ目に得られた示唆として挙げられるのは、「品德核心価値」の設定である。月毎に1つの核心価値をテーマにして行事や授業に取り組んでいくので、各教育活動相互を有機的に関連づけたり統合したりしやすいというメリットがあることが分かった。わが国にも道德的価値は学習指導要領に記されているが、それらを日常的に子供たちに意識させていくには数が多すぎる²²。そこで、学校や地域の実情や児童生徒の実態に応じて重点的に指導していきたい価値を精選し重点化して効果的に指導できる工夫を施していく必要があるだろう。学校独自に核心価値を定め、実効性のある道德教育を展開している学校を筆者は視察したことがある²³。アメリカのキャラクター・エデュケーションを取り入れた東京都世田谷区の小中学校もそうした取り組みを行い、成果をあげていることが注目される²⁴。小学校から核心価値を繰り返し指導し、多様な教育活動の中で定着をはかっていっているのである。

次に第2の示唆としては、豊富な体験活動を通して道德的行為や習慣を形成し、道德的価値の定着をはかっていたことである。関渡小では具体的な行動目標が設定されており（表1参照）、道德的行為や習慣が形成できるような配慮

がなされ指導が行われていた。また、西湖中でも家庭や地域と連携した体験活動の中で子供たちにその一員としての自覚を深め、貢献することの喜びを実感させようとしていた。

近年わが国の道德教育も、「集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実する」²⁵とあるように体験活動の必要性が強調されるようになってきている²⁶。しかし、これまで「内面的資質としての道徳的実践力が強調されるあまり、道德教育における実践的な行動力等の育成が軽視されがちな面がある」²⁷という問題点のあったことが指摘されている。特に道德の授業では「内面の資質としての道徳的実践力」だけを育成すればよいという傾向が従来みられ、授業で学習したことが現実的な生活場面や行動になかなか結びつかず実効性が乏しいともいわれている。こうした反省点を踏まえ「とりわけ、道徳的実践の指導の充実を図る」²⁸ことが、道德の教科化を契機に推奨されるようになってきた。したがって、道德科においても「道徳的習慣や道徳的行為について、その意義を含めた指導を取り入れることがあってよい」²⁹し、「指導のねらいに即し、適切と考えられる場合には、〔中略〕道徳的習慣や道徳的行為に関する指導〔中略〕を、発達の段階を踏まえつつ取り入れることも重要である」とされるようになったのである。

そういう意味では、特に特別活動は道德科との「関連を重視した指導を行なうことで、道德教育としての効果を一層高めることが期待される」ところであり、計画的な取り組みが強く求められる³⁰ことになる。特別活動において体験活動を繰り返す中で道徳性が養われ、それと関連させて道德の授業を行えばより実感を伴わせ理解を深めることができ、道徳的価値の自覚をより円滑に深化させることができるだろう。

最後に第3の示唆として、各教育活動における道德教育が意図的に計画され継続して取り組まれていたことが挙げられる。各学習領域で「生命教育」「性別平等教育」「生涯教育」が行われ、行事を通して道徳的な体験活動が豊富に実践されていた。つまり学校の教育活動全体を通じて行なう道德教育が充実していたといえよう。

わが国でも道德教育は「学校の教育活動全体を通じて行うもの」となっている

が、「現状では、そこで定められる重点目標や内容が形式的なものにとどまっている学校も多く、本来求められる成果を生み出しているとは言い難い」³¹ 状況下にある。全体計画を作成するものの、それを活用しないというのは、多くの学校で計画が全教師の共通理解のもとで検討され作成されておらず、計画の評価も不十分だからである³²。したがって、全教育活動を道德教育の視点でとられえず、自覚的に道德教育を行なおうとする意識を低下させてしまっているのではないかと考えられるのである。

西湖中では学務（生活教育係、活動係、体育係、衛生係）という校内部署³³が品德教育を担当しており、ここが指導の方針を決め、全校的な指導体制をとっていた。わが国も学校長が道德教育の基本方針を明確に示し、その方針の下に道德教育推進教師をリーダーとして推進されていくことになっているが、全体計画が活用されないというのはそれが十分に機能していないからなのではないのか。全教育活動を通じて道德教育が行えるための指導体制を構築し、精力的に各教科領域の中で道徳的内容を組み込んでいかなければならないだろう。そうすれば、その要となる道徳科の授業は、より子供の生活や実態に応じ密着した内容で展開することができると期待できるからである。

IV 台湾道德教育の課題

筆者がレクチャーを受けた李教授によれば、台湾においても教師の道德教育に対する知識や認識不足があるようだ。これは、大学の教職課程において道德教育関連科目が必修になっていないことの影響も考えられる。また、道德教育に理解が不足し不熱心な校長もいるそうなので、品德教育の実施状況には学校格差があるようだ。精力的に行う学校もあれば、道徳を重視しない学校もあるということだ。実際、台北市における小学校の調査³⁴で、品德教育について「適切に実施する時間がない」が51.6%、「教育課程の進み具合と合わない」が64.4%と回答しており、半数以上の割合で品德教育は充分には実施されていないようである。

道德教育においては認知的、情意的、行動的な指導をバランスよく行うことが大切だが、専科の授業で教えないと、それら三つの指導をバランスよく体系

的に行えないことが懸念される。専科を設定すれば、システムも整備され教えやすいからだ。専科において決められた内容があるということは、指導を行う上で統一性や均一性が確保しやすい。台湾の道德教育が学校によってその内容が異なりまちまちになってしまい教育内容の質的格差も生じてしまっているのは、やはり専科としての道德授業が存在しないためであろう。

専科の授業がなくなったことに対して保護者やマスコミなどから批判があった一方で、学校の教師は専科で行わなくてもいいという認識が大半を占めていたという。「他の教科や教育活動の中でも道德教育は行われているから、あえて専科を設けて教える必要はない」「行動をさせていけば道德は学べる」「専科の教員だけでなく他の教科の教員も道德教育を行うべきだ」「戒厳期のイデオロギーを道德教育の中で教えられるのではないか」などがその理由だ。李教授によれば、このまま道德を教育活動全体で教えるのか、あるいは専科を導入するのか、まだ研究者の間で議論が継続中であり、今後また改革が行われ変化していくであろうことが予想される、とのことだった。実際、どのようなときに品德教育を行えばよいか、迷っている学校もあるそうだ。わが国も教育活動全体を通じて道德教育を行うことになっている反面、それが十分に実施されていない現状があるが、台湾でも各領域学習の中に道德教育を取り入れることの困難性は指摘されているのである³⁵。

こうした品德教育実践の困難性は、大学の教員養成課程の中に道德教育関連科目が必修になっていないことが一つの原因となっていると考えられる。研究機関における道德教育専門の教員や研究者の数が少なく、また先述したように大学の教職課程の中で道德教育関連科目が必修になっていないという現状がある。教職課程において道德教育の専門性を養成し高めていくことは、台湾だけではないだろう。それは、わが国にも共通した課題であるといえるだろう。

註

- 1 渡邊毅「韓国の道德科とその授業の考察 一日韓小（初等）中学校の道德教育を比較して」（『学校カウンセリング研究』第14号、平成26年）39-52頁。
- 2 教育部のナショナル・カリキュラムのガイドライン、教育部品德教育促進方案作成

台湾道德教育の動向と実際（渡邊）

にも携わった道德教育の研究者。

- 3 国家教育研究院は、2011年に教育部のもとに設立された教育研究機関である。道德教育に関しては、台湾全土で展開される道德教育のリソースをまとめることやウェブサイトにて教師が授業で活用できる資料を掲載し、また教師がそれに実践（指導案）を投稿できるようにもしている。また、ウェブサイトには子供の道德教育に対する感想、シンポジウムや専門家の論文も掲載されている。教師は、このウェブサイトで自分の行った道德教育を他の教師と交流しシェアしている。そして、以前はウェブサイトのポイントはリソースを集めることだったが、これからは道德教育をさらに進展させていくために、大学の教員に講義してもらうことになっているという。
- 4 柯華葳（院長）、張雲龍（教育資源及出版中心組主任）、林信成（綜合企画室研究助理）、洪詠善（課程及教学研究センター副研究員）。
- 5 1994年9月21日に日本の臨時教育審議会をモデルとする行政院教育改革審議委員会（教育改革に関する内閣の諮問機関）が成立し、2年間の審議を経て『教育改革総諮議報告書』が出され、これにより改革が実施されている。
- 6 7つの領域には、「語文」「健康と体育」「数学」「社会」「芸術と人文」「自然と生活科技」「綜合活動」があり、小学1、2年次には「生活課程」が設けられている。
- 7 7つの領域の中でも、道德に対応する内容が多く含まれているのは、「社会」と「綜合活動」の領域である。
- 8 『教育部ホームページ』平成29年12月15日〈https://www.edu.tw/News_Plan_Content.aspx?n=D33B55D537402BAA&sms=954974C68391B710&s=8ACFD3C5773F61E0〉。
- 9 「教育部品德教育促進方案」の「方案目標」に示されている「生命尊重、親孝行・目上の人を尊重すること、責任感、誠実信用、自主自律、公平正義、善行・配慮」などから選択して学校で作成することになっている。
- 10 `05年に「十二年国民基本教育政策」が決定され、十二年一貫義務教育を実現する諸施策が展開され、`14年11月28日に「十二年国民基本教育課程綱要總綱」が公示され、十二年国民教育が開始されるようになった。つまり義務教育が9年から12年に延長され、小学校から高級学校（普通高校、職業高校）3年生までが義務教育となったのである。

台湾道德教育の動向と実際（渡邊）

- 11 李教授によれば台湾における品德教育は学校間で格差があり、精力的に推進する学校もあればあまり重視しない学校もあるということだった。教師は道德教育についての知識を育成しなければならないと感じていると話していた。
- 12 これらの教材には、教育部や縣市、民間団体が提供するものや学校・教師の自作のものなどがある。
- 13 『北投区関戸国民小学ホームページ』『台北市国民小学104学年度校務評鑑 自我評鑑報告』平成29年12月15日〈<http://www.kdps.tp.edu.tw/104學年度校務評鑑自評報告（關渡國小）.pdf>〉。
- 14 教育部の調査機関の委託を受け品德教育の事例研究を行なうとともに、『品德教育成果彙編』を刊行し台北市の学校に対し、継続的かつ長期的な道德教材の提供を行っている。
- 15 1945年に中華民国施政下に移行したときに、4月開始学年制から8月開始学年制（9月入学）に切り替えられた。
- 16 関戸国民小校長・呉文徳からのヒアリングによる。
- 17 学務のもとに生活教育係、活動係、衛生係、体育係などがある。
- 18 2週間に1回45分間設定されており、授業内容は教師の裁量で行えることになっている。
- 19 得丸定子編著『「いのちの教育」をひもとく 一日本と世界一』（現代図書、平成20年）146頁。
- 20 財団法人アジア・太平洋人権情報センター編集『国際人権ブックレット9 東アジアの男女平等教育』（開放出版社、平成14年）56頁。
- 21 孔子の誕生日である9月28日にちなんで行われている行事である。
- 22 小学校低学年で19項目、中学年で20項目、高学年で22項目、中学校で22項目である。
- 23 渡邊毅「歴史的地域プライドによる道德教育の展開 『県居の心』を核とした浜松市立県居小学校の教育実践に着目して」（『皇學館大学教育学部研究報告集』第4号、平成24年）185-220頁。筆者は以前浜松市立県居小学校を視察調査したことがあるが、県居小では郷土の偉人として賀茂真淵が尊敬され、真淵の教えから抽出された「県居の心」を学校の核心価値に位置づけ、優れた道德教育が展開されていた。県居小はその実績が認められ、平成24年に「第28回文部科学省後援 道德と特別活動

台湾道德教育の動向と実際（渡邊）

- の教育研究賞」（財団法人総合初等教育研究所主催）文部科学大臣奨励賞・学校（団体）の部・最優秀賞を受賞している。
- 24 若井田正文「世田谷における徳育の施策『人格の完成を目指して』」（『クウォリティ・エデュケーション』第6巻、平成26年）139-153頁。若井は同論文の中で、心理学的な分析により「平成23年から徐々に成果が上がり、平成25年が一番よくなっている」「その理由として、小学校からの積み上げが実り始めた」（151頁）としている。
- 25 文部科学省『小学校学習指導要領』第1章総則、平成27年3月一部改正、5～6頁。
- 26 『国立青少年教育振興機構ホームページ』「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」平成22年10月〈<http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/62/File/10taikenhyousi.pdf>〉。同調査研究により、子ども期の体験と心の成長に「相関がある」ことが示されている。
- 27 『文部科学省ホームページ』道德教育の充実に関する懇談会「今後の道德教育の改善・充実方策について（報告）～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」平成25年12月26日〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/afieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf〉.2016.8.10〉。
- 28 『文部科学省ホームページ』中央教育審議会「道德に係る教育課程の改善等について（答申）」平成26年10月21日5頁〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf〉.2016.9.14〉。
- 29 同上、7頁。
- 30 同上、12頁
- 31 同上、12頁。
- 32 田邊重任「道德教育の全体計画の作成と活用に関する一考察 —全体計画に関する諸問題を解決するために—」（『道德と教育』第57巻331号、平成25年）81-82頁。
- 33 校内組織として校長の下に教務、学務、総務、輔導という4つの部署が置かれている
- 34 前掲、林于仙論文、7頁。
- 35 李奉儒「九年一貫課程にける道德教育の実施の困難と解決」（『学生輔導』NO.92、2004年）40-52頁。

Trends and Realities of Moral Education in Taiwan
—Focusing on the Practice at Taipei City Elementary and Junior High Schools

Tsuyoshi WATANABE

Abstract

I visited the public elementary and junior high schools in Taiwan which are implementing moral education in each learning area and got the following three suggestions.

- ① "Core value" was set, and one value was set up for each month, and based on the "Code of Conduct", it was practiced in the events and the lessons in order to internalize the value.
- ② While providing abundant experience including moral content and repeat the repetition of activities, they were trying to internalize the moral value.
- ③ Moral education in each educational activity was intentionally planned and continued to be implemented.

However, in Taiwan as a whole, there were many teachers who lacked awareness of the virtue education, and it was found that there was a problem that it was not sufficiently implemented in more than half of all schools.

Keywords : Character Education, Core value, Code of conduct, Experience activities, Educational activities in general